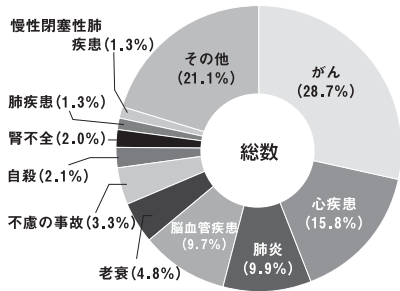


がんを知ろう！

文=竹内 志保(保健師)

■死亡総数に占める死亡原因の割合



厚生労働省「人口動態統計2012年」

最近の研究では、健康な人の体の中でも1日に数千個のがん細胞が作られているといわれています。健康的な生活

がん細胞から「がん」へ

がんは、昭和56年から死亡原因の第一位で、がんによる死亡者数は年間30万人を超えています。3人に1人ががんで亡くなる時代です。早期発見、早期治療をしましょう。

こうして、生き残ったがん細胞は細胞分裂を繰り返して大きくなっていきます。最初のがん細胞の大きさは1mmの100分の1です。そこからさらに細胞分裂を繰り返して増殖し続け、がんの大きさが1cmになるまでには大人なら10年〜15年ほどかかります。しかし1cmから2cmになるのは1年半程度といわれています。検診によって早期がんのうちに見ることができるのは、たった1〜2年くらいこの時期しかないのです。

早期に「がん」を発見できる時期は限られる。を送る人は免疫の働きで、毎日そのがん細胞を退治しています。しかしその中で免疫の働きが及ばないがん細胞が、突然変異でできてしまうことがあります。

早期がんとは大きさが2cmくらいまでを指します。早期がんとして発見できるこの1〜2年間の時期に発見し、治療することで治る確率はぐんと高くなります。しかし早期がんは自覚症状がほとんどありません。がんが小さく転移や出血を起こすような進行がんになる前、早期の時に発見し完治できるように、胃がん、肺がん、大腸がんは1年に1回の受診がすすめられているのです。ですから、「去年がん検診を受けて、何とも無かったから今年はパス(受けない)！」というのは、間違っているのです。去年は見つからなくても、今年は見つかるかもしれないのです。

早期にがんを発見して、完治させよう



40歳になったら胃がん、肺がん、大腸がん検診を受けよう
平成23年度の全国の年齢別死亡数では、50〜70歳代はがんによる死亡が一番多くなっています。あなたの人生の大切な時期にがんを命を落とさないように、若いうちからがんを予防する健康的な生活習慣作りと、がん検診受診による早期発見と完治をめざしましょう。

総合健診を受けよう

町では、冬季総合健診を下記の日程で実施します。特定健診、肺炎検査などとあわせて、胃がん、肺がん、大腸がん検診を行います。ぜひ受診しましょう。

日程 平成26年1月18日(土)〜19日(日)

会場 すこやか健康センター

申込期限 1月7日(火)

※申込方法など詳しくは、別配布のチラシをご覧ください。